

詩集
透き通る歲月

草薙 定

詩集 透き通る歲月

草薙 定

草薙 定 (くさなぎ さだむ)

- 本 名 松沼 隆
- 1957年 栃木県栃木市生まれ。
- 地方公務員
- 詩誌「橋」同人。栃木県現代詩人協会会員。

現住所 〒328

栃木県栃木市今泉町1-5-5

サンライズコーポ秋間101号室

詩 集 透き通る歲月

1990年3月16日 発行

頒 価 1,000円

著 者 草 薙 定

発行所 橋 の 会

栃木県宇都宮市中戸祭町800-4 野沢方

電話 0286 02 8538

印刷所 (有)井上総合印刷所

宇都宮市岩曽町1355

電話 0286 (6) 4723

透き通る歲月 目次

I

私たちの時

透き通る歲月……………6

雨の前に……………10

信濃風景……………14

信濃点描……………18

東の空……………24

博物館で……………28

緑の情景……………32

Ⅱ 心の旅立ち

山間白日	38
絶望 得意なひとへ	40
失速した物理学者	43
高原の花	44
舞雪	47
山腹から	48
ほの暖かさ	52
挽歌	56
あなたに	60
祈り	64
春を待つ	68
旅	72

Ⅲ 異次元の旅行者

種を播く人	76
駆け巡るもの	82
塔	90
水の記憶	94
錆びついた時	102
笛	104
あとがき	112
初出一覧	115

I 私たちの時

透き通る歲月

鍋島青磁波陽刻皿
一六七三年

波紋様を浮べた

一枚の青磁の皿

静けさのよどみ

透き通る歲月

冷やかに深い時をたたえて

人はこの皿に

何を盛ってきたか

豪勢な宴の一の膳二の膳

粟稗さえも載せられなかった日々

あるいはまた盛り切れない程の愛や

こぼれそうな涙

時の湖の岸边に

遠い所から繰り返し繰り返し

波は寄せて来る

このまま

時がとどまればいいのに

湖のほとりで

男と女はそんな言葉を

幾度となくささやいてきた

きららかな言葉は過ぎ

人は過ぎ

波は遠くから寄せて来て

深い神秘の湖には

多くの伝説だけが残る

心もとなく

壊れ易いはずの一枚の皿は

三百年の時を越え

さらに千年の時に向かい

水底をさらに深めて行く

私は

私の今を確かめるために
色香したたる桜桃を一つ
青磁の皿に投げ入れてみる

雨の前に

和らいだ五月の陽ざし

深まり行く緑

ミルク色の無数の花房を散りばめて

遠く近くマロニエの木立ち

淡い紫色の敷砂利の庭には

植込みの線と面と

白い石に縁どられた丸い池と

幾何学模様配されている

ベルサイユの北西の空は

藍色に暗んで

青ざめた水面^{みづう}を

さざなみが走る

中天になだれ込む不気味な雲

木立ちは光と陰を失ない

葉を裏がえした

亜麻色の長い髪が

なびき 乱れ 香る

そのひとの透き通るような

真白い綺羅が体にまつわりつくと

突然 僕の前に現れた
ふくよかな女性の肉体
ビーナス誕生

嵐を呼ぶ

翳りを帯びた光と 風の

前奏曲^{プレリュード}

美と生命の予感

終止符を打つ肌寒い雨

旅行者たちの軒下への待避

ビーナスもまた背を抱かれ

傘に入り込むと

ひとりの女へと舞い戻る

信濃風景

足もとに

民家の屋根屋根を見て

峠への小みちが

大きな弧を描いて

空に消え入る

旅人は

しばし憩い 眺めるであろう